

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100372		
法人名	株式会社ティエムコーポレーション		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	群馬県安中市宿1-9-17		
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・病院との連携がとれるよう関係構築を図っており、急変時にも対応ができるので、ご家族にも安心して頂ける体制を整えております。</p> <p>・季節を感じて頂けるよう、ホール内の飾り付けや塗り絵等は、利用者様と職員で一緒に作成しております。また、ドライブや散歩等をして気分転換しながら楽しく過ごせるようにしています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=1071100372-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>動き回る利用者には行動を止めるのではなく他に注意がむくように声をかけたり、入浴を怖がる利用者には試行錯誤した結果、本人が希望するシャワー浴で安心して清潔保持につなげたり、利用者の思いに寄り添い尊重したケアが行われている。生活の場面では、洗濯物をたたんでもらったり、和裁をしていた方には布を切ってもらったり、身体を洗える方にはフォローしながら洗っていただいたり、尊厳を保ちこれまでの生活が継続できるように支援している。また、看護師の職員が訪問診療時には立ち合い健康状態および変化を把握し、適切な医療につなげると共に、職員の相談をうけて排便コントロールや皮膚疾患の処置の指導をするなど、健康管理が行われている。そうしたなか、事業所での看取りケアの実践もあるなかで、自宅で看取りを希望した家族(退居する利用者家族)のフォローを行うなど、利用者支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念の振り返り、確認をし共有して実践に繋げています。	月1回のミーティングで、職員と意見交換を行い、理念に基づいたケアについての検討を行っている。そうしたなか、利用者の尊厳に重視して自由であり安全な生活が送れるよう、入浴・排泄などの場面における対応が行われている。	理念の実践としてそれぞれの職員が行っていることを話し合う機会づくりをすることで、職員の共通理解のもとさらなる実践につながることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症も5類になり、地域の行事も増えてきております。地域の方が声を掛けて下さり、お祭り等に参加し交流をしています。	コロナ禍でこれまでの関わりが難しくなっているが、隣接している農産物直売所に立ち寄りお店の方とやりとりができる関係がある。また、散歩の際には近所の方と挨拶をしたり、一緒に散歩をしたりなど、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所時には利用者と交流してもらう等、開放的にしていますが、コロナ感染症の影響もあり、現状、来所数は少ないです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議で報告・承認・意見・アドバイスを頂いています。職員へも共有し、サービス向上に活かすようにしています。	対面での会議が開催されるようになり、市・家族の他、地域の方が参加して、行われている。報告を行い、他の事業所の状況を聞いたり、制度改正・助成金などの情報を得たりしている。今後、コロナ禍前のように、民生委員の方の参加も検討している。	参加メンバーの再考や、そうしたなかで、事業所に有効な話し合いにつながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に質問、意見、指導を頂き、何かあれば報告するように取り組んでいます。	コロナ禍より、運営推進会議として市職員と職員で話し合いが行われ、現在は他の参加者も交えて、事業所の報告を行い助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは理解していますが、やむを得ない理由においては手続きをとり実践し、極力解除できる方向で目標に取り組んでいます。	転倒の危険がある方には、ベッドを低床にしてマットレスを敷くなど、拘束をせずに転倒リスク軽減のための環境づくりを行っている。他の利用者の居室に入ってしまう行動にも、行動を止める言葉かけでなく、他に注意をひくような言葉かけをしたり、危険度の高い利用者から対応したりなど、しないためのケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を強く共有し、身体的観察も怠らず、言動的にも虐待の見逃しがないように注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はありませんが、管理者、ケアマネ間では、制度について共有し理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、介護支援専門員が中心となり、時間をかけ家族と対話し理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍中は運営推進会議への参加を遠慮して頂いておりましたが、記録を配布し目を通して頂いていました。また、面会や利用料支払時等の来所時には意見や要望等がないか必ず伺っています。	利用料を基本窓口払いとして、意見を伺う機会としている。過去には、外出先などについて意見を伺うこともあったが、現在は具体的な事柄について意見を能動的に聞く機会には至っておらず、やりとりのなかで利用者の生活における要望を聞くにとどまっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社内ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させています。	月1回のミーティングや日々の業務のなかで、ケアに関する意見が中心であるが、設備や物品購入に関する意見があり検討が行われている。職員は、行事担当として担当月の行事・レクリエーションの企画に携わっている。年1回は、代表者との面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件について十分把握し、職員の声を聞き対応できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修機会を確保するため、体制を整えております。 法人内では、ナースによる感染症対策のレクチャーや介護の不得意分野のOJTを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会議の場などで情報交換等をしサービスの質を向上させる取り組み、また、信頼関係を築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が本人からの話を十分に傾聴し、信頼して頂けるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ともお会いし、十分に話をしてもらえようように耳を傾けながら理解・納得できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を見極め、ご家族と話し合い、支援できる力を考えサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事をして頂き、寄り添う姿勢を保つように心掛け、昔の話や習慣等も教えてもらい、なじみの関係を築くよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の話に耳を傾けると同時に、本人と家族の関係を大切にしたい関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で出掛けの際、ご自宅周辺に立ち寄り、散歩したりなどし支援しています。	面会で家族や友人(ボランティア仲間)と会ったり、地元の中宿灯笼人形を見に行ったり、家族と通院の帰りに自宅に立ち寄りしている。事業所では、まゆ玉づくりや洗濯物たたみを行ったり、利用者が慣れ親しんだ作業をしていただくことで、活躍する場面づくりに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったり、声掛け等を行い、関わり合い、支え合いができるよう支援しています。また、席の配置等も考えて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅で看取りたいと退所された家族とも連絡のやり取りを継続し、ご本人の様子を伺ったり、介護の相談や支援を実施しました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望等を傾聴し、把握に努力しています。	その時々利用者の状況により、職員が話していることが伝わっているかにも注意して、また、会話として成立が困難な場合には、利用者の言葉の真意や表情などにより、意向の把握に努めている。具体的にレクリエーションをあげて選んでもらうなど、意向を汲む努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員の調査と家族からの情報等から生活歴の把握に努め、職員間での共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが利用者の変化を注視し、小さな変化も記録に残し、共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで利用者の現状報告、課題を話し合い、介護計画に反映させています。	毎月ミーティングで話し合い、モニタリングを行っている。介護計画は、すぐに見られるようにしている。長期・短期目標を達成するためのサービス内容となっているか、サービス内容が達成したのかがモニタリングできる内容なのか、現在、検討が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個人記録に残し、共有し、カンファレンス等で話し合い、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況を踏まえてサービスの多様化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民として行事に参加し、中宿灯籠人形を観て頂いたり、まゆ玉作り等をして頂き、楽しんで生活できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望とするかかりつけ医と連携をとり、定期往診・受診等の支援をしています。	協力医の訪問診療、家族によるかかりつけ医への通院が行われており、訪問診療の際には看護師が対応して健康状態の把握と適切な受診につなげている。排便コントロールや皮膚疾患など看護師を通じて医師の指導を得て、健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、24時間連絡がとれ、相談や対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報交換、相談、主治医との連携等良好にできており、協力指導もして頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点に始まり、状況に応じその都度説明と方針の確認をし関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居時、その後も状態変化の度に、家族の気持ちも変化するので意向を確認して、常時医療的な処置が必要な場合を除き看取りケアを実践しており、実績もある。看護師の対応及び指示をうけ取り組んでおり、看取り期には代表者も応援体制に入り、家族に泊って頂くなど、チームで対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではありませんが、必要時には看護師を中心にレクチャーをしてもらっています。また、研修に参加して実践に役立てるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・避難訓練等を行っています。例年ですと、消防立会の訓練では地域の方も参加して頂いております。	年2回夜間想定避難訓練を実施しており、地域の方に3名参加していただき、避難誘導後の見守りを依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に声掛け、言葉遣いに注意し対応できるよう努めています。	居室入室時には、入室する目的を説明して、利用者のプライベートな空間を大切に扱うとともに、不安や不信につながらないように注意している。生活のなかで、生活の知恵や昔のことなどを聞く機会をもち、これまでの生活(人生)を尊重する姿勢でいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先のペースを大切にし、強制する事なく、その人らしい生活ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師による理美容カットを行い支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを伝え説明しながら召し上がって頂いています。 食食用エプロンなど、畳んでもらいますが、台所に入ることはしません。	ごく刻みやミキサーで食事をとる方もいるなかで、メニューを説明して、食べていただくようにしている。手作りの食事を提供するなかで、誕生日には好きなものを提供したり、普段提供することがないサンドイッチなどの利用者の要望に答えたりして、楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食記録をとり、水分量等もチェックし一人ひとりの状態を把握し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導・介助し一人ひとりの口腔ケアや舌の確認をしています。 また、夕食後には義歯は預り消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄チェック表によりパターンを活かした支援をしています。	2～3時間おきにトイレ誘導を行い、声かけを拒否する方には、立ち上がった機会を捉えたり、職員を変えたりして、失敗がないように注意している。おむつ対応で退院された利用者も脚力などをみながら2人介助でトイレへ誘導して、おむつ外しに成功した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取に配慮したり個々に応じた方法で予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否をする方には希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう個々に沿った支援をしています。	利用者の状態に応じて、安心して入浴ができるよう重度化している方には2名介助で行ったり、怖がる方にはシャワー浴にしたりして、それぞれの状態にあわせて入浴につながるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣やその時々心身の状態を把握し、安心して休息したり気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を把握し理解すると共に、変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品、楽しみごと等を情報収集し、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力が得られる外出は希望通り支援に努めています。また、ドライブや日光浴、散歩等の外出を支援しています。	散歩に出たときには近所の方と一緒に歩いたり、犬の散歩中の方と触れ合ったりしている他、車椅子利用の方も含めて季節の花を見に出掛けて、ときにはアイスクリームを食べるなど特別感を味わい、気分が高まる機会作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は家族承諾のもと小遣い程度の金額を所持していましたが、現在該当者はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいと希望される方はおりませんが、本人希望で電話をする支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔を保ちくつろげる場になるよう、季節感を取り入れながら居心地よく過ごせるよう工夫しています。	大きめの模造紙にきのこや紅葉などの季節を感じる作品を作って、飾っている。利用者の人間関係にも配慮して席の配置を決めたり、職員が仲介したりして、気持ちよく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は思い思いに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドとカーテン以外の物は自由に持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるように工夫しています。	使い慣れたものを持ち込んでいただき、テレビ・タンス・衣装ケース、ラジオ・ぬいぐるみなどが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り自立を妨げないように安全な環境作りに配慮し、工夫しています。		